

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25380357

研究課題名(和文) 企業の投資戦略と政府間の財政競争に関する研究

研究課題名(英文) Investment strategies of firms and fiscal competition between governments

研究代表者

三城 安生 (SANJO, YASUO)

名古屋大学・経済学研究科(研究院)・研究員

研究者番号：10547441

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、海外直接投資に関する理論モデルを構築することによって、企業や政府を取り巻く様々な外的要因の変化が、各国政府間の財政競争や企業の投資戦略にどのような影響を与えているのかを分析し、政策的な含意を明らかにした。具体的には、(1) 海外資本による企業所有の役割と政策競争、(2) 市場構造の違いと財政競争、(3) 海外直接投資に伴う固定費用と企業の投資戦略、の3つについて分析を行った。

研究成果の概要(英文)：This study analyzes how various external factors affect firms' investment strategies. It also examines fiscal competition between governments by developing theoretical models for foreign direct investment, and provides possible policy implications. Specifically, this study explores the following subjects: (1) policy competition between governments and the role of firm ownership by foreign capital, (2) market structure differences and fiscal competition between governments, and (3) firms' investment strategies and the fixed setup costs of foreign direct investment.

研究分野：社会科学

キーワード：公共経済学 財政競争 海外直接投資 投資戦略 空間競争

1. 研究開始当初の背景

経済のグローバル化に伴い、製造業を中心に世界各国の企業が安い労働力や新たなマーケットを求め、あるいは輸送費用の削減や為替の影響を排除するために国内から海外へ生産拠点を移動させている。こうした企業の行動は企業を誘致する各国にも大きな影響を与えている。例えば、海外企業を誘致する国々は、企業の進出に伴い、新たな雇用創出の機会を得るだけでなく、海外企業をもたらす新技術の波及効果や税収の増加などを期待することができる。これらは、海外企業の誘致が社会厚生の上をもたらし可能性を持つことを意味し、各国政府は租税競争のみならず公共財供給や公的支出などによる財政競争を通じて、企業誘致を行っている。

このような海外直接投資を巡る今日的な経済状況は多くの研究者の関心を集めており、貿易論や産業組織論、また財政学の各分野に関係する研究対象として、1990年代以降盛んに研究が行われるようになってきた。しかし、これまで蓄積されてきた多くの研究では、分析に際し、完全競争市場を仮定していたため、企業の投資戦略などといった意志決定が理論モデルの中で明示的に内生化されておらず、企業の選択がどのように競合他社へ影響を与えているか、また各国の厚生水準にどのような影響を及ぼしているかについて、十分な分析がなされてこなかった。したがって、今後の研究では、企業の投資戦略や各国政府による財政競争について不完全競争市場の視点から理論的に分析を行う必要性があると考えられる。

2. 研究の目的

海外直接投資に関して、伝統的な財政競争の理論に基づく研究では、企業の意志決定が明示的に内生化されていない。一方、近年の研究では、企業の立地選択などの意志決定をモデル化することによって、先行研究とは異なる結論を導き出している。しかし、そこで行われている分析は非常に限定的なものであり、企業の特質や投資戦略に対する十分な分析が行われていない。このような近年の研究動向を受け、本研究では、企業や政府を取り巻く様々な外的要因の変化が、各国政府間で行われる財政競争や企業の投資戦略にどのような影響を及ぼしているかを分析するとともに、社会的に望ましい財政政策とはどのようなものであるかを明らかにすることを研究の目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、企業の投資戦略と政府間の財政競争に関して、数学的に構築されたモデルを用い、理論的側面から分析を行った。分析に際し、解析的に均衡解を得ることが困難な場合にはシミュレーションによる数値解析を行った。

具体的には、海外直接投資を行う企業と誘致国の既存企業との間で展開される企業間競争および海外企業を誘致するために財政競争を繰り広げる各国の厚生水準の変化などに着目し、誘致国の望ましい財政政策と企業の最適な投資戦略を明らかにする分析を行った。分析に使用した理論モデルの基本的な構造は、市場規模の異なる大国と小国で構成される2国モデルである。また、伝統的な租税競争理論や貿易論などでは完全競争市場を仮定した分析が行われてきたが、本研究では、伝統的な先行研究とは異なり、不完全競争市場を仮定した分析を行った。

4. 研究成果

本研究から得られた主要な研究成果は以下の3点である。

(1) 海外資本による企業所有の役割と政策競争に関する分析

本研究では、海外資本を通じた企業所有の在り方が海外直接投資を行う企業の投資戦略にどのような影響を与えているのか、また企業誘致を巡って政策競争(税・補助金)を行う各国について、海外資本の流入による社会厚生への影響はどのようなものであるかを分析し、望ましい企業誘致政策とはどのようなものであるかを明らかにした。具体的に構築した理論モデルは市場規模の異なる大国と小国からなる2国モデルである。大国には海外資本によって部分的に所有されている既存企業が存在し、小国には既存企業は存在しない。この仮定は、投資を行う企業が大国へ立地した場合に直面する2つの効果(大国の市場規模から得られる立地的優位性と新規参入企業が既存企業との競争にさらされる立地的劣位性)に基づく。このような仮定の下で、海外直接投資を行う第3国の企業がどのような投資立地を選択し、その選択が大国と小国の厚生水準と企業誘致政策に影響を与えているのかを分析した。分析に際し、大国政府と小国政府が同一の政策を行うケースと、両国政府が異なる政策を行うケースの2つの経済状況について分析を行った。また、異なる政策を分析する際には、オークションの概念を用いた。

分析によって、次のような結果が得られた。

両国政府が同一の政策を行う場合

直接投資を行う企業の立地選択は、大国への資本流入の有無にかかわらず、大国と小国の市場規模の差異と輸送費用の大きさによって決定される。これは、先行研究で得られた結果と同一である。しかし、大国の既存企業に対して海外資本の流入が増加するのに伴い、大国による海外直接投資を行う企業の受け入れは、大国の厚生水準を高めることにつながることを示された。

この結果は、次のように説明することができる。大国は海外直接投資を受け入れることによって、厚生への正の効果である消費者余

剰の向上と負の効果である国内既存企業の利潤の低下から成る厚生の変化に直面する。このとき、国内既存企業へ海外資本が流入することによって、既存企業の利潤の一部は国外へ流出するが、この利潤の国外流出は厚生に対する負の効果をも弱める。結果として、海外資本の流入が大国の厚生水準を向上させることにつながる。

両国政府が異なる政策を行う場合

ここでは、海外資本が大国の既存企業へ流入するに伴い、海外直接投資を行う企業が大国に立地する可能性を高めるという結果が示された。

この結果は、次のように説明できる。大国の既存企業へ海外資本が流入しないとき、両国の政策競争によって、直接投資を行う企業は既存企業との競争を避けるために大国へ立地するインセンティブを低下させる。しかし、海外資本が大国の既存企業へ流入するに伴い、直接投資を行う企業は大国へ立地するインセンティブを高める。これは、企業誘致を通じて国内の消費者余剰の向上を図ることができるため、大国が投資を行う企業に対し補助金を提示するなどして、国内投資を導くからである。したがって、海外資本の流入増加に伴い、投資を行う企業は大国へ立地するインセンティブを持つ一方で、大国は厚生水準を向上させるために、海外資本に対して積極的な開放政策を実施し、海外企業を誘致することが国内厚生の改善という視点から望ましいことがわかる。

この結果に加えて、両国の税・補助金政策については、次の結果が得られた。大国の既存企業へ海外資本が流入することは、小国の投資政策に影響を及ぼす。直接投資を行う海外企業が小国へ投資を行うのであれば、小国は海外企業に対して補助金を提示する可能性を高める。また、大国企業への海外資本の流入増加は大国の投資立地としての魅力を高め、大国が海外企業に対して補助金を提示するインセンティブを与える。さらに、より低い輸送費用の下では、両国が海外企業に対して投資補助金を提示するインセンティブを高めることが明らかになった。

(2) 市場構造と財政競争に関する分析

グローバル化の高まりとともに、各国の企業は積極的に海外直接投資を行っている。実際、多くの企業は生産拠点を自国から海外へ移動させている。こうしたグローバル企業の海外投資戦略は多くの研究者から学術的関心を集め、これまでに多くの研究成果が蓄積されてきた。代表的な研究では、不完全競争市場を仮定した2国モデルを使用して、海外直接投資を行う企業の投資立地選択と誘致国間の財政競争について様々な側面から分析を行い、実際に観察されている経済的な現象に一定の解釈を与える結論を導き出している。そうした先行研究では、製品の生産量や価格などの意志決定が企業間で

同時に行われると仮定されている。しかし、より現実的な経済状況の下では、各企業の意志決定に関して先導者と追随者の存在が観察されている。特に、既存企業が存在する市場に新たな企業が参入を行う場合、既存企業との間で先導者と追随者の関係が生じることが少なくない。したがって、より現実的な経済状況を分析するためには、意志決定を同時に行う企業の存在だけでなく、逐次的な意志決定を行う企業の存在についても分析する必要があると考えられる。

本研究では、海外直接投資を行う企業の投資戦略が投資先の市場構造によってどのような影響を受けることになるかを明らかにし、企業の投資立地選択と企業誘致を行う各国政府の財政競争の間に存在する相互関係について分析を行った。分析に用いた理論モデルの基本的な構造は上述の分析(1)で使用したモデルとほぼ同じである。ただし、本研究では、上述の分析(1)のモデルとは異なり、海外資本による大国の既存企業の部分的な所有は考えない。また、海外直接投資を行う企業が大国へ立地する場合には、大国の市場構造として、Cournot タイプと Stackelberg タイプの2種類を想定し、Stackelberg タイプの市場構造の下では既存企業と投資を行う企業のどちらかが先導者もしくは追随者であると仮定した。これは、投資を行う企業と既存企業との間で行われる競争について、3種類の可能性があることを示している。これとは逆に、投資を行う企業が小国へ立地する場合、小国には既存企業が存在しないため、企業間競争は常に Cournot タイプであると仮定した。一方、両国政府の政策については、上述の分析(1)と同様に、両国政府が同一の政策を行うケースと、両国政府が異なる政策を行うケースの2つの政策状況について分析を行った。

分析によって、次の結果が得られた。

両国政府が同一の政策を行う場合

海外直接投資を行う企業が大国へ立地し、大国の既存企業との競争関係において、投資を行う企業が先導者であり、既存企業が追随者であるという可能性の下では、両企業が同時に意志決定を行う場合と比較して、投資企業は大国への投資からより多くの利潤を得ることができる。このとき、大国は海外直接投資を受け入れることによって、厚生水準を高めることができる。しかし、投資を行う企業が追随者であり、既存企業が先導者であるという可能性の下では、投資を行う企業は既存企業との直接的な競争が無く、より多くの利潤が得られる小国へ立地しようとする。このとき、小国の厚生水準については、大国の市場構造が Stackelberg タイプであれば、両企業が先導者か追随者のどちらであっても、より高い厚生水準を得られる。したがって、大国の市場構造が Cournot タイプから Stackelberg タイプに変化することによって、投資を行う企業の投資立地選択は大きな影

響を受けるとともに、両国は厚生水準を向上させることが可能となることが示された。

両国政府が異なる政策を行う場合

大国の市場構造が Stackelberg タイプであれば、大国の市場構造が Cournot タイプである場合と比較して、投資を行う企業が先導者であるか追随者であるかに関わらず、投資企業は大国への投資からより多くの利潤を得る。さらに、両国政府が同一の政策を行う場合に得られた分析結果と異なり、投資を行う企業が大国において追随者であったとしても、大国は海外直接投資を誘致することに成功する。この結果は、両国政府が同一の政策を行う場合に得られた結果とは大きく異なる。したがって、両国政府が異なる政策を行うというより現実的な経済状況の下では、大国の市場構造が Stackelberg タイプであることが大国にとってより望ましい市場構造であることがこの分析によって明らかにされた。

(3) 製品の輸送費用と海外直接投資に伴う固定費用および製品の差別化に関する分析

海外市場へ製品を供給する企業の投資戦略には、企業が海外直接投資を行わず、自国内で生産活動をし、国外へ製品を輸出する方法と、海外直接投資を通じて国外へ生産拠点を移動し、海外市場へビジネスを拡大する方法の2つが考えられる。ここで企業にとって重要となるのが、生産拠点を海外に移動させる場合に生じる固定費用と自国から製品を輸出する際に必要となる輸送費用である。しかし、代表的な先行研究では、企業の誘致国間に存在する市場規模の差異や製品の輸送費用については分析を行っているが、海外直接投資に伴う固定費用については明示的な取り扱いがなされていない。

そこで、本研究では、海外直接投資に伴う固定費用の大きさが企業の投資戦略にどのような影響を与えているかを明らかにするための分析を行った。具体的には、海外直接投資に伴う固定費用を理論モデルの中で明示的に取り扱い、製品の輸送費用と海外直接投資の固定費用が企業の投資立地選択と誘致国の厚生水準にどのような影響を与えているかを明らかにした。また、この研究では、代表的な消費者の効用関数に製品差別化の概念を導入することを試みた。

本研究は上述の分析(1)や分析(2)で用いたモデル設定とは多少異なり、小国の既存企業が海外直接投資を通じて大国へ生産拠点を移動させるか、あるいは、海外直接投資を行わず、自国である小国から大国へ製品を輸出するかどうかの選択を行うと仮定した。小国の既存企業が大国へ生産拠点を移動させない場合は、小国から大国へ製品の輸送費用が発生する。一方、小国の既存企業が大国へ生産拠点を移動させた場合、固定費用の負担に加え、大国から小国へ製品を輸出するための輸送費用が発生する。

分析の結果、製品の差別化が進むほど小国の企業が大国に海外直接投資を行うインセンティブを高めることが示された。これは小国の企業にとって製品の差別化が投資立地としての大国の魅力を高めることを表している。従来の研究では、本研究とは異なり、製品の差別化については考えておらず、同質な製品を仮定することによって分析が進められてきた。そのため、大国と小国の市場規模の差異と輸送費用の大きさによって海外直接投資を行う企業の投資戦略が決定されることが示されてきた。しかし、本研究の分析によって、製品差別化が大国の立地的優位性を加速させることが明らかになった。すなわち、現在の様にバリエーションに富んだ製品展開がなされる経済状況の下では、企業にとって自国から他国へ輸出を行うよりも海外直接投資を行うことが望ましい投資戦略になることがわかる。

一方、輸送費用の大きさが企業の投資戦略に及ぼす影響については、実際の輸送費用が臨界的な輸送費用よりも高い場合、企業は自国から製品を輸出し、これとは逆に、実際の輸送費用が臨界的な輸送費用よりも低い場合、企業は海外直接投資に伴う固定費用の大きさに依存して投資戦略を選択するという結果を与えている。このような分析結果が得られた背景には、企業が海外直接投資を行う場合、企業が固定費用と投資先から自国への輸送費用の両方を負担する必要があり、過大な費用負担は企業の投資意欲を低下させるということがある。また、小国と大国の両国は企業の投資戦略に依存してそれぞれの厚生水準を大きく変化させていることもこの研究で明らかにされている。

(4) その他

上記3点の研究成果に加えて、本研究では海外直接投資に関係する複数の派生的な研究に取り組むことができた。その研究成果の1つとして、公企業の存在をモデル化した海外直接投資に関する分析がある。その分析では、自国の厚生最大化が目的である公企業が存在する大国と利潤の最大化が目的である民間企業が存在する小国の2国から構成される経済地域を分析対象にし、公企業の存在と両国の市場規模の差異が海外直接投資を行う企業の投資立地選択と各誘致国の厚生水準にどのような影響をもたらしているかを明らかにした。この分析では、海外直接投資を試みる企業の立地選択は誘致国間の市場規模の差異だけではなく、既存企業の属性などからなる市場構造の違いにも大きく依存することが明らかにされた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雜誌論文〕(計1件)

Yasuo Sanjo, “The role of firm ownership in policy competition for foreign direct investment between asymmetric countries,” *International Review of Economics and Finance*, Vol. 35, pp. 110-121, (2015). DOI:10.1016/j.iref.2014.09.009. (査読有)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

三城 安生 (SANJO, Yasuo)

名古屋大学・経済学研究科・研究員

研究者番号: 10547441